

重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: 空冷ジーゼルエンジン		現地の通称: コンバイン用MWM製エンジン	
資料種別: ☒ 製品-実物 ☐ 製品-レプリカ ☐ 製品-模型 ☐ 製品図面 ☐ 写真等 ☐ 図書掲載 ☐ その他			
資料種類: ☐ 人力用具 ☐ 耕起前器具 ☐ 管理防除 ☐ 貯蔵関連 ☐ 畜力用具 ☐ 耕耘用具 ☒ 収穫機 ☐ 施設類 動力・分野 ☒ 原動機具 ☐ 整地用具 ☐ 調製機器 ☐ 機素 ☐ トラクタ用機 ☐ 施肥播種 ☐ 加工機器 ☐ その他		管理プレートNo.	牝牛舎041
		台帳No.	
製作者・会社: 本体(バウツ社)、モートレンベルケ(MWM)社		製造市・国名 独逸	
製造年_購入年,標本収集年: 1952年輸入、			
使用目的・使用方法等	自走式コンバイン駆動用、動力源		
利用経過_収集記録_意義等	1952年に新宮商工により、わが国で戦後初めて輸入された自走式コンバインである。1970年ごろ北大農場で中古で購入し、麦類収穫に利用し、1980年ごろ廃棄され、農業器械研究室で卒論用試験機として利用して部分毎に分解した。その廃棄してエンジンのみを残した。		
仕様書_解説等	輸入品 バウツ社(ドイツ)製T600型自走式コンバイン=刈幅1.9m、輪距前輪: 1539cm後輪930cm、全長7.68m、全高2.4m 全重2430Kg 同上装着のモートレンベルケ(MWM)製空冷4気筒40Psジーゼルエンジン、		
右に全体図			
外観特色			
関連図等			
資料の所在	牝牛舎	資料への特記事項	
資料管理経過			
作業メモ・上掲欄の超過文追記	翌1953年には、農水省が全国府県毎に43台の普通コンバインを導入して稲作の機械化実験を行ったが、ゴムタイヤでの走行性と稲の難脱粒性のために見事に失敗した。北海道には、レンタルの有人ヘリコプタでの直播、農薬除草、インター製103型コンバインの収穫、リスター型通風乾燥機による生籾乾燥であった。同年にはドイツインタ社製コンバインが芽室実験集落に入り、道立十勝農業試験場農業機械科が数多くの性能試験を行った。		

台帳管理番号